「リストラでの出来事」　2024年03月13日

「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。私たちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、私たちは福音を告げ知らせているのです。この神こそ、天と地と海と、そこにあるすべてのものを造られた方です。神は過ぎ去った時代には、すべての民族が思い思いの道を行くままにしておかれました。しかし、神はご自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、あなたがたの心を食物と喜びとで満たしてくださっているのです 。」（使徒14： 15b ～17）

パウロとバルナバは、リカオニア州のリストラに移動し、宣教を行った。この町に足の不自由な男がいて、彼は一度も歩いたことがなかった。この人がパウロの話に聞き入っていた。パウロは、彼を見つめ、癒されるのにふさわしい信仰があるのを認め、「自分の足でまっすぐ立ちなさい」と、大声で命じた。すると、彼は躍り上がって歩き出した。著者ルカは、パウロは主イエスと同じように、病を癒やす権能を付与されていたと伝えている。パウロの行ったことを見た群衆は興奮して、リカオニアの方言で、「神々が人間の姿をとって、私たちのところに降りて来られた」と言った。そして、バルナバを「ゼウス」と呼び、パウロは主に話す人であったので「ヘルメス」と呼んだ。バルナバは体格もよく堂々としていたのでギリシアの主神「ゼウス 」、 パウロは小柄であったので「ヘルメス」と呼んだのではないか。町の外にあったゼウスの神殿の祭司が雄牛数頭と花輪を運んで来て、群衆と一緒になって二人にいけにえを献げようとした。町の人々は、二人を神々と崇め、犠牲の供え物を献げようとしたのである。これを知ったパウロとバルナバは、衣を裂き、群衆の中に飛び込んで行き、「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。私たちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、私たちは福音を告げ知らせているのです」と叫んだ。私たちは神々ではなく、あなたがたと同じ人間である。私たちは、地上の人や物を神々とする偶像から離れて、真の神を信じるように、福音を語っている。そして、私たちが説く「この神こそ、天と地と海と、そこにあるすべてのものを造られた方です。神は過ぎ去った時代には、すべての民族が思い思いの道を行くままにしておかれました。しかし、神はご自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、あなたがたの心を食物と喜びとで満たしてくださっているのです」と続けた。神は天地を創造された神で、この神が雨を降らせ、実りの季節を与え、心を食物と喜びで満たす恵みをくださる。二人の話を聞いて、群衆はいけにえを献げることをようやく止めた。二人は、リストラで人は神ではないと福音的メッセージを証しする出来事を起こした。

一方、パウロの、律法によっては義に至らず、ただ主イエスを信じる者が、神からの義に与るという福音は、律法を尊重し、厳守を誇るユダヤ教徒には許せない教えだとして、以前、宣教したアンティオキアやイコニオンからユダヤ人たちが押し寄せた。リストラの群衆を抱き込み、パウロに石を投げつけ、死んだと思い、町の外に引きずり出した。パウロに対し、いかに強い反感を持っていたことか。しかし、弟子たちが取り囲むと、パウロは起き上がり、翌日、バルナバと共にデルベに向かった。Ⅱコリント書11章25節で「石で打たれたことが一度」と書いているが、パウロの宣教は文字通り命がけであった。